

「科学でまちづくり」-学生による地域貢献活動と科学教育

Regional Contribution Activities & Science Education in Hachinohe City

○丹羽隆裕 (八戸工業高等専門学校)

○Takahiro NIWA (National Institute of Technology, Hachinohe College)

E-mail: niwa-g@hachinohe-ct.ac.jp

1. はじめに

地域貢献活動は、学生の社会性の涵養とキャリア教育において重要な位置を占める活動であると言える。本稿では、八戸高専科学部（以下、科学部）が取り組む、学生による地域貢献活動の成果と、科学教育の課題について考察、報告する。

2. 活動報告

八戸市は、学生主体の地域貢献活動に対して「八戸市学生まちづくり助成金制度」を制定し、学生活動を支援している。科学部ではこの制度を活用し、平成 23 年度から、八戸市内を中心に、歩行者天国イベント、学園祭、公開講座等で、「家庭でも再現できる科学実験工作」をテーマに、学生による小学生対象の実験教室を開催してきた。活動は完全に学生主導で、工作や実験内容の提案、安全性の検証、イベント当日のプログラムの立案、金銭管理などの運営面に至るまで、全て学生が担当している。過去 3 年間の活動で 20 回のイベントを開催、延べ人数にして 1000 人超の参加があった（写真）。この成果は市内で高く評価され、前年度に開催された「学生まちづくりコンペティション」で、最高賞である市長賞を受賞、「学生が行う科学教室」が地域貢献活動として非常に有効であることが再認識された。

3. アンケートより - 科学教育に見えるもの

イベントごとに集計している参加者アンケートでは、子ども達からも保護者からも継続的な開



写真：八戸小学校文化祭での活動（平成 26 年度）

催を望む声が多く聞かれるなど、好意的な意見が多かった。また、「科学で分からない話題は何を使って調べるか」という問いには、小学校全学年で「保護者に聞く」が最多であることが分かった。この結果から、科学教育において、親子のコミュニケーションが根幹となること、子どもの科学リテラシーだけでなく、保護者のそれを涵養することも重要であることが示唆された。

4. まとめ

3 年間に渡る「科学で地域貢献活動」は、市長賞受賞で大きな評価を得た。今年度も継続して活動を行うが、新規性や継続性が課題となっている。今後は、これらの問題解決に向けた指導を継続する他、アンケートから見てきた「親子の科学コミュニケーション」や「大人の科学リテラシーの涵養」にも力点を置いて活動を指導したい。また、工学教育の観点からは、これまで「官・学」だけで行ってきた活動を、いかに産業活動と接続するかも今後の検討課題と言える。